



令和6年 年頭のご挨拶



森田 弘昭

一般社団法人
日本非開削技術協会会長

明けましておめでとうございます。

新しい年である令和6年が始まりました。会員の皆様におかれてはそれぞれに新たな目標と抱負をもって新年を迎えられたことと思います。まずは会員の皆様と(一社)日本非開削技術協会がともに穏やかな新年を迎えることが出来たことに感謝したいと思います。

年頭にあたり昨年の当協会の活動を振り返ってみたいと思います。

まず、総括的に1年を俯瞰してみると、コロナ禍が終息して各種対面活動が復活し当協会活動のみならず街に活気が戻ってきました。また、コロナ禍で培われたWeb会議技術も随所で効果的に活用されてきたと思います。

さらに当協会の特徴でもある国際活動が活発になってきました。国際非開削技術協会(以下、ISTT)の会長が台湾国立中興大学教授であることから昨年は台湾非開削技術協会(以下、CTSTT)との相互訪問が実現し協力協定を締結しました。この国際活動活発化の流れは今後も続くものと考えています。

個別の活動を時系列的に見てみますと、昨年2月に、オンライン方式で非開削技術講習会を(公社)日本推進技術協会と(公社)日本下水道管路管理業協会との共催で実施しました。HDD工法、管路更生工法、非開削地下探査技術、推進工法について説明を行いました。また東京電力ホールディングス(株)の全面的な協力のもとで柏崎刈谷原子力発電所の見学を実施しました。

5月にはCTSTTなどの招請で日本の非開削技術の現状について紹介してきたところです。

国内では当協会が発行している「地下探査技術適用の手引き」を用いてオンライン技術講習会を実施しました。

6月の総会・懇親会は4年ぶりの完全対面実施となり200名を超える来賓と会員の方々にお集まりいただ

き盛会となりました。また、令和5年は任期満了に伴う役員(理事)候補の改選時期で、本通常総会で新役員が報告されました。さらに中国合肥市で開催された国際非開削技術研究発表会でも日本の非開削技術の現状を紹介してきました。

7月には地下管路に焦点をあてて国土交通省下水道部、(公社)日本下水道協会、(公財)水道技術研究センターから講演をいただきました。

9月には静岡県下水道技術研究会からの要請でバイオマス肥料の有効利用をテーマに講師やプログラム作成の支援を行いました。また東京電力ホールディングス(株)の全面的な協力のもとで福島第一原子力発電所および第二原子力発電所の見学を実施しました。

10月には、メキシコシティー(メキシコ)で開催されたISTT総会に出席し各国の最新非開削技術の情報収集や日本人発表者のサポートを実施しました。また、(公社)日本推進技術協会が主催したバンドン工科大学(インドネシア)における推進工法セミナーにおいて標準化・規格化の意義について紹介しました。

11月には、第34回非開削技術研究発表会を開催しました。本発表会にはISTT会長や英国非開削技術協会(UKSTT)会長などが参加され国際色のある研究発表会となりました。

12月には、JSTTの国際サービスの一環として海外研修の充実を図るためにGCUS東南アジア委員会と連携して第3回目のベトナム研修を実施しました。

昨年の活動を振り返りますと海外からの新しい風が吹き寄せているのではないかと感じます。当協会は、この新しい風を大切にして会員の皆様のお役に立つ活動を進めていくことを心に念じ取り組んでいく所存です。

新しい年が会員の皆様にとって実りある年となりますように祈念して年頭のご挨拶といたします。